

ひょうごビジョン2050 (案)

2022年3月

兵庫県

この冊子は、上段が概要、下段が詳細、上下で一組の作りとしています。6ページからは、15の「めざす姿」ごとに実現をめざす2050年の社会の姿を記し、下段のアクション例は、その実現に向けて、今から始められる取組の一例を記しています。

第 1 部 基本事項

1	ビジョンの役割	・・・	1
2	社会変化の潮流	・・・	2
3	兵庫の強み	・・・	3
4	策定の視点	・・・	4

第 2 部 めざす姿

<2050年の兵庫の姿>			
	『躍動する兵庫』	・・・	5
<5つのめざす社会>			
I	自分らしく生きられる社会	・・・	6
II	新しいことに挑戦できる社会	・・・	9
III	誰も取り残されない社会	・・・	12
IV	自立した経済が息づく社会	・・・	15
V	生命の持続を先導する社会	・・・	18

第 3 部 実現に向けて

1	基本姿勢	・・・	21
2	動かす仕組みづくり	・・・	22

《経緯》

策定のプロセス	・・・	23
---------	-----	----

《参考》

9つの地域ビジョン	・・・	24
-----------	-----	----

第1部 基本事項

1 ビジョンの役割

ビジョンの必要性

- 社会が大きく変化し、コロナ禍でも様々な課題が浮き彫りに
- 兵庫のめざす姿を指し示す新しいビジョンが求められている

基本的な性格

- 県民が共にめざす姿を描くビジョン
- 県民が主役になり、地域から取り組むビジョン
- 変化を生み出し、成長するビジョン

展望年次

- 私たちの子や孫が生きる30年先の2050年頃のめざす姿を描く

県政上の位置づけ

- 県が進める政策の羅針盤として運用

全県と地域

- 全県ビジョンと一体的に9つの地域ごとの地域ビジョンを策定

(1) 新しいビジョンの必要性

大きな社会変化により先の見通しがますます難しくなってきました。コロナ禍でも社会の様々な課題が浮き彫りになりました。これから私たちはどこに向かって進んでいけばよいのでしょうか。兵庫のめざす姿を指し示す新しいビジョンが今求められています。

(2) 基本的な性格

①県民が共にめざす姿を描くビジョン

未来は私たちの手で創るものです。より良い未来を創るためには、現在の延長線上に予測される未来像ではなく、県民一人ひとりがなりたい姿＝理想の将来像を思い描く必要があります。そうした県民のなりたい姿が叶う未来のイメージから、県民が共有する、共にめざす社会の姿を描き出すのがビジョンの役割です。

②県民が主役になり、地域から取り組むビジョン

多様な主体が共に実現をめざして取組を進めるビジョンをめざします。主役は一人ひとりの県民であり、ビジョンに共感し、兵庫に関わるすべての人です。

個性豊かな多様な地域からなる兵庫。決して一様ではない、それぞれの地域のめざす姿の実現に向けて、地域から主体的に取組を進めることが大切です。

県はそうした取組を促し、支えます。

③変化を生み出し、成長するビジョン

作って終わりではなく、成長し続けるビジョンをめざします。問題は未来のために今何をするか。ビジョンを具体的な行動につなげることが大切です。ビジョンの実現に向けたプログラムや行動を生む仕掛けをつくり、状況に応じた見直しにも柔軟に対応します。

(3) 展望年次

理想の実現には長い時間がかかります。私たちの子や孫が生きる社会をより良いものにするために今後何をすべきかを考える拠り所とするため、一世代後の30年先、2050年頃のめざす姿を描きます。

(4) 県政上の位置づけ

このビジョンは県政の基本指針となるものです。

計画の目標にビジョンのめざす姿を織り込むなど、県が進める政策の羅針盤として運用していきます。

(5) 全県ビジョンと地域ビジョン

兵庫県の強みは地域の多様性です。この強みに磨きをかけるため、県全体の骨太な将来像を提示する全県ビジョンと一体的に、9つの地域ごとの将来像と行動目標を示す地域ビジョンを策定し、各地域の個性を伸ばす新しい取組につなげます。

2 社会変化の潮流

人口減少・超高齢化

- 減る人口
 - 大都市への人口集中
 - 人口の高齢化、伸びる寿命
- ⇒ 人口が減っても豊かな兵庫をつくる

地球からの警鐘

- 気候変動
 - 頻発する災害
 - 感染症の流行
 - 資源の枯渇
- ⇒ 未来の暮らしを守るために直ちに行動を

テクノロジーの進化

- 時間や空間の制約を取り除くICT
 - 生命の概念を変えるテクノロジー
- ⇒ テクノロジーを暮らしの向上に活かす

世界の成長と一体化

- 人口も経済も大きくなる世界
 - つながり合い一つになる世界
- ⇒ 世界とのつながりを地域の活力源に

経済構造の変容

- 経済活動の「非物質化」
 - 富の集中と格差の拡大
- ⇒ 公正で持続可能な経済社会をつくる

価値観と行動の変化

- 持続可能性重視
 - 所有から利用へ
 - 固定から流動へ
 - 画一から多様へ
- ⇒ 新しい価値観・行動様式を根付かせる

< 6つの大潮流 >

今後の社会変化の潮流は大きく6つ考えられます。

(1) 人口減少・超高齢化

本県の人口は長期的に減り続ける見込みです。その中で人口の偏在化が進み、県民の寿命がさらに伸びて高齢化も進みます。人口減少＝衰退のステレオタイプの発想を改め、定住人口が減少する中でも、交流人口に恵まれ、質の高い豊かな暮らしが営まれる兵庫をつくるのが大切です。

(2) 地球からの警鐘

地球全体が暑くなり、異常気象の常態化など社会に後戻りのできない変化をもたらす恐れがあります。次の世代により良い環境を引き継ぐためにも、災害や感染症から身を守るためにも、地球からの警鐘を受け止め、直ちに行動に移すのが大切です。

(3) テクノロジーの進化

ICTや生命科学などの進化が時間・空間・身体のリミットを取り除き、私たちの暮らしや社会を大きく変えていくでしょう。新しいテクノロジーのリスクにも配慮しながら、その可能性を豊かな暮らしやより良い社会の実現に活かしていくのが大切です。

(4) 世界の成長と一体化

世界はアジア、アフリカを中心に今後も成長が続く見込みです。インターネットで世界は一つに結ばれました。古くから海外に開かれた窓として発展してきた兵庫だからこそ、世界との交流を深め、そのつながりを地域づくりの原動力にしていくのが大切です。

(5) 経済構造の変容

価値の源泉が工場設備などの有形資産から知識や技能などの無形資産に移り、人的資本投資が企業の将来を左右する時代になります。経済活動のいわば非物質化に対応して産業構造の変革を進め、公正で持続可能な経済社会をつくっていくのが大切です。

(6) 価値観と行動の変化

経済社会の新たな形を模索する動きやICTの普及を背景に、持続可能性重視、所有から利用へ、固定から流動へ、画一から多様へといった価値観と行動の変化が進んでいます。都市の脆弱性や社会の分断など様々な問題を再認識させたコロナ禍を時代の転機とし、新たな価値観や行動様式を根付かせ、多様な暮らし方、働き方が広がる地域をつくっていくのが大切です。

3 兵庫の強み

五国の個性

□ 気候風土、歴史文化の異なる五国からなる県

但馬 日本海に面し積雪が多い。県最高峰氷ノ山等の山岳、変化に富む海岸線など自然美を誇る。

播磨 肥沃な播磨平野、豊かな播磨灘、世界遺産姫路城を擁し、県土の4割を占める広大な地域。

淡路 国生みの島。南北の大橋で四国と本州を結ぶ。古来より御食国と称され、今も農漁業が盛ん。

丹波 豊かな土壌を活かしたブランド農産物を生産。都会に近い田舎として移住者に人気。

摂津 港町神戸を中心に開放的な都市文化が根付く。市街地が広がり県人口の6割が集中。

培ってきた地力

- 高度なものづくり産業
- 多彩な地場産業
- 世界有数の科学技術基盤
- 食の宝庫
- 防災先進県

進取の気風～開放的な地域性～

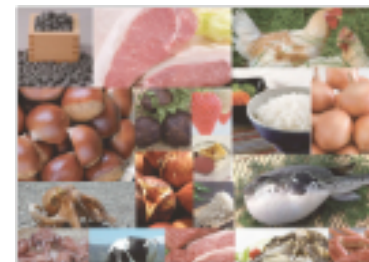
- 古くから交流の結節点として栄え、海外の文化を先駆けて受け入れてきた地域
- 高田屋嘉兵衛、鈴木商店、賀川豊彦など進取の気性に富む人材・企業を生んできた地域



摂州神戸
海岸繁栄之図



SPring-8とSACLA
提供：理化学研究所



個性豊かな食材

(1) 五国の個性

兵庫は、気候風土、歴史文化の異なる摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の旧五国が一つになった県です。今に息づく五国の個性が兵庫県の強みです。

多様な地域が関わり合い、補完し合って発展してきた県だからこそ、これからも県内での活発な交流が新たな力を生み、兵庫に活力をもたらすでしょう。

(2) 進取の気風 ~ 開放的な地域性 ~

兵庫には古くは大輪田泊、中世以降は兵庫津と呼ばれる港があり、中国、朝鮮との交易の拠点として栄えました。鎖国下も国内交易の拠点として繁栄し、1868年の神戸開港後は日本を代表する国際貿易港として発展してきました。海外の文化を全国に先駆けて進んで受け入れてきた「進取の気風」が兵庫県の特徴です。

こうした開放的な地域性が、伝統的な価値観や固定観念に縛られずに新しい課題に挑む「進取の気性」に富む人材、企業を生み、世界へ送り出してきました。

(3) 培ってきた地力

①高度なものづくり産業

阪神・播磨臨海地域を中心に基礎素材型や加工組立型の高度な製造業が分厚く集積しています。

②多彩な地場産業

清酒、素麺、皮革、鞆、線香、釣針など全国トップシェアを誇る産業や、ケミカルシューズ、播州織、三木金物、淡路瓦など著名な産地があり、約40もの多彩な地場産業が県内各地に根付いています。

③世界有数の科学技術基盤

スーパーコンピュータ「富岳」や大型放射光施設SPring-8、X線自由電子レーザー施設SACLAという世界有数の先端科学技術基盤を擁し、計算科学と光科学を中心にした知的創造拠点が形成されています。

④食の宝庫

北は日本海、南は瀬戸内海、紀伊水道から太平洋に面する兵庫。気候風土の異なる多彩な土地が生む神戸ビーフ・但馬牛、山田錦、丹波黒大豆、たまねぎ、シラス、ホタルイカ、ノリなど個性豊かな食材は、兵庫発のブランドとして国内外で高く評価されています。

⑤防災先進県

阪神・淡路大震災と、その後の度重なる災害を経験し、兵庫は安全で豊かなまちへと進化を続けてきました。兵庫が培ってきた防災・減災の知恵と技術は世界中の安全を守るために活かされています。

こうした強みが発揮されるビジョンをめざします。

4 策定の視点

県民の想い

- 多様な価値を認め、変化に柔軟に対応できる社会を
- 自分なりの生き方が選択できる自由度の高い社会を
- 人と人のつながりを育み、共に歩む「包摂」を
- 未来を担う次代のために社会の「持続」を

大事にしたい マインド 「開放性」

- 県民の想いに共通するのは、「開放性」の高い社会への強い願い
- 「開放性」は兵庫ならではの強みであり、今後も伸ばすべき特性
- 兵庫の未来は「開放性」をキーワードに描き、取り組むものに

ビジョンの 描き方

- 人口減少、テクノロジーの進化など社会変化の潮流を前提にして未来社会で営まれる生活や社会経済活動のめざす姿を描く

< 県民の想い >

□ 多様な価値を認め、変化に柔軟に対応できる社会を

これまでにない新しい価値観を受容し、認め合う中から、時代の変化に柔軟に対応できる社会をつくっていく必要があります。新しい発想や技術を取り込み、どんな課題に対しても、常識にとらわれず、創造的に乗り越えていける地域が求められています。

□ 自分なりの生き方が選択できる自由度の高い社会を

コロナ禍で今までとは違う暮らし方、働き方があることに気付かされました。一人ひとりがもっといろいろな生き方を追求できる社会に変えていく必要があります。多様な選択肢から自分なりの道を選び取っている自由度の高い社会が求められています。

□ 人と人のつながりを育み、共に歩む「包摂」を

孤立を生まない社会づくりを進めていくことが大切です。助けが必要な人々に寄り添って伴走する社会をつくっていく必要があります。人と人の確かなつながりが育まれ、誰も取り残されない、すべての人を包摂する地域が求められています。

□ 未来を担う次代のために社会の「持続」を

地球の危機に向き合い、未来を担う次代のために持続可能な社会づくりを加速させる必要があります。多

様な地域からなる兵庫はその実践を行う絶好のフィールドです。人・モノ・情報・お金が循環するローカル経済圏をつくり、カーボンニュートラルな暮らしと経済を根付かせていくことが求められています。

< 大事にしたいマインドは「開放性」 >

こうした県民の想いに共通するのは、もっと「開放性」の高い社会であってほしいという強い願いです。

物理的にも精神的にも壁のない社会。属性に関わらず一人ひとりの可能性が開ける社会。伝統的な価値観も大切にし、対話を通じて互いに認め合う、他者に寛容な社会。そうした「開放性」の高いしなやかな社会の姿を描き出すビジョンが求められています。

「開放性」は兵庫の強みでもあります。交流の結節点として栄え、進取の気性を持つ人材を生んできた兵庫ならではの物語をこれからも紡いでいく。様々な壁が取り払われた未来を示し、その実現に向けて対話を重ね、みんなで合意形成して取り組む。「開放性」が根底に流れるビジョンをめざします。

< ビジョンの描き方 >

人口減少・超高齢化、テクノロジーの進化など社会変化の潮流を前提にして、未来社会で営まれる生活や社会経済活動のめざす姿を描きます。

2050年の
兵庫の姿

誰もが希望を持って生きられる
一人ひとりの可能性が広がる

『躍動する兵庫』

包摂

×

挑戦

躍動

5つのめざす社会

I 自分らしく生きられる社会

- ① 自由になる働き方
- ② 居場所のある社会
- ③ 世界へ広がる交流

II 新しいことに挑戦できる社会

- ④ みんなが学び続ける社会
- ⑤ わきあがる挑戦
- ⑥ わきたつ文化

III 誰も取り残されない社会

- ⑦ みんなが生きやすい地域
- ⑧ 安心して子育てできる社会
- ⑨ 安心して長生きできる社会

IV 自立した経済が息づく社会

- ⑩ 循環する地域経済
- ⑪ 進化する御食国
- ⑫ 活動を支える確かな基盤

V 生命の持続を先導する社会

- ⑬ カーボンニュートラルな暮らし
- ⑭ 分散して豊かに暮らす
- ⑮ 社会課題の解決に貢献する産業

<2050年の兵庫の姿>

私たちが2050年頃までに実現をめざす兵庫の姿は、「誰もが希望を持って生きられる 一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』」です。

「誰も取り残されず、みんなが希望を持って生きられる」という意味での「包摂」と「思い思いのチャレンジができ、一人ひとりの可能性が開ける」という意味での「挑戦」、この2つを両輪にして『躍動する兵庫』を実現していきます。

<5つのめざす社会>

I 自分らしく生きられる社会

いろいろな価値観を認め合い、様々な選択肢から自らの意思で暮らし方や働き方を選べる社会になっています。みんなに居場所と役割があり、多様なコミュニティが活発に活動しています。各地に根差す文化や産業など五国の個性を強みに、国内外との活発な交流が行われる地域になっています。

II 新しいことに挑戦できる社会

人生100年時代の中で、何を大切に生きていくかを多くの人が自問するようになります。いろいろな経験ができ、一人ひとり異なる人生の道筋を描ける社会になっています。教育の形が変わり、生涯を通じて学び

続け、新しいことに挑戦し続ける人が増えています。兵庫の多彩な文化が地域の魅力を高めています。

III 誰も取り残されない社会

どんなに科学技術が進化しても、大事なことは、人とのつながりであり、人の温かみです。つながりの大切さが認識される中で、年齢、性別、障害の有無、国籍などに関わらず一人ひとりの個性が大切にされ、誰もが安心して暮らせる社会になっています。

IV 自立した経済が息づく社会

世界を覆うデジタル経済、広がるシェアリングエコノミー。そうした中で持続可能な経済社会をつくる取組が進められています。地域に根付くものづくり産業を中心に、食、農、エネルギー、文化など生活に密着した産業が成長し、地域の中で価値が循環する自立的な経済圏が形成されています。

V 生命の持続を先導する社会

資源の再利用やエネルギー自立の取組が進められ、カーボンニュートラルな暮らしが根付いています。自然に囲まれた潤いのある生活を志向する人が増え、兵庫の多様な地域性を活かした豊かな暮らしが各地で営まれています。人類の持続可能性を高める産業が県内に集積し、新しい基幹産業になっています。

めざす姿

I 自分らしく生きられる社会

①

自由になる働き方

いろいろな働き方を
自分の意思で選ぶことができ
自分なりの役割を
見出せる社会

例えば

- 年齢・性別を問わず誰もが生き生きと仕事をしている
- 複数の場で活躍する人が増え、社会の中に自分の役割がある
- 地域の多様性を活かしていろいろな場所で働ける
- 複数の仕事を組み合わせて生きる人が増える
- 場所や組織にとらわれない生き方が広がる

- 好きなことや得意なことを大切に自分らしい仕事と働き方を追求する人が増えています。誰もが仕事にやりがいを見出し、生き生きと働いています。好きなことを強みに独自の活動を展開する人が、社会に価値を生み出しています。
- ボランティア活動や地域活動など複数の場で活躍する人が増えています。誰もが社会の中に自分の役割を見出し、時間を使い分けながら、それぞれの場で誇りを持って活動しています。
- 社会のデジタル化に伴い、働き方の自由度が高まっています。仕事内容やライフスタイルに合わせて働く時間と場所や住まいを選ぶ働き方が広がり、仕事の生産性と生活の満足度が共に高まっています。地域の多様性を活かしていろいろな場所で働くこと

が兵庫の強みになっています。

- 年齢、性別や働き方による不合理な待遇差がなく、一人ひとりが状況に応じて働き方を選べる環境が整い、すべての人が生き生きと活躍しています。
- 終身雇用・年功序列の雇用形態にこだわらず一つの組織に長くとどまらない働き方も広がっています。個人事業主として生きていく人や複数の仕事で経済的に自立する人も増えています。雇用の流動化に対応した学び直しや職業訓練の仕組みが整い、多様な働き方が尊重される中で安心して暮らせます。
- 仕事に応じて住む場所を決めるよりも、人生のステージに応じて住む場所を変える暮らし方が広がっています。場所や組織にとらわれない自由な生き方が広がり、旅するように生きる人が増えています。

〈アクション例〉

- 活躍できる場をいくつも持ち、活動の幅を広げよう。
- 働く時間と場所を一人ひとりが選べるようにしよう。
- 労働時間を減らし、もっといろいろな活動をしよう。
- 選択的週休3日制を導入しよう。1週間以上の長期休暇も取りやすくし、仕事以外のチャレンジを促そう。
- 女性がかつと活躍できる仕組みを整えよう。
- シェアオフィスやコワーキングスペースで仕事しよう。

- どんな働き方を選んでも安心できる就業環境を作ろう。

「人生100年時代」を先取りする

人の寿命は今後も伸び「人生100年時代」に近づきます。年を取っても働く人が増え、手持ちのスキルで生きていくのが難しくなり、絶えざる学び直しが必要になります。教育⇒仕事⇒引退の直線型ではなく、学びを繰り返す、仕事は複数の選択肢を持つことが大切になります。教育やキャリア形成のあり方を見直す必要があります。

みんなに
人とつながれる居場所があり
孤独を感じないで
暮らせる社会

例えば

- 開かれた居場所が地域にあり、緩やかに人とつながれる
- 生活空間を共有し、つながりを感じながら暮らす
- 共通の趣味や関心で結ばれた多様なコミュニティが広がる
- 属性を超える活発な交流が地域を越えて広がる
- 多様な非営利組織が住民による自治の拠り所になる

- 自宅や職場、学校だけでなく、緩やかに人とつながれる開かれた居場所が身近にあります。気の向くままに訪れても誰かがいて、時には仲間と賑やかに、時には一人で静かに時間を過ごすことができます。
- 地域に様々な集い場があり、遠くの家族、友人ともオンラインで気軽に出会えます。生活空間を共有するライフスタイルが広がり、シェアハウスやグループホームでつながりを感じながら楽しく暮らす人が増えています。近くに身寄りのない単身者も、人とつながり、孤独を感じずに暮らしています。
- 共通の趣味や関心事、悩み事などで結ばれた多様なコミュニティが広がっています。コミュニティの活動が可視化され、人々はリアルに、あるいはバーチ

ャルにそれらの活動に関わり、居場所と役割を見出しています。地域をより良い場所にするための取組に多くの人々が参加しています。

- 属性を超えた活発な交流が地域を越えて広がっています。多様な人々との交流とそこから生まれる温かい人間関係が暮らしの質を高めています。
- 地域自治組織や、兵庫が先導的に進めてきた協働の取組の中で生まれたNPO、スポーツクラブなど多様な非営利組織が、人が集まり、それぞれの人がやりたいことをやる居場所になっています。それらが地域の課題に自主的に取り組む人々の開かれた拠点となり住民による自治の拠り所となっています。

〈アクション例〉

- 自宅や職場、学校以外のお気に入りの居場所と、気軽に話し合える仲間を持つ。
- 孤独を感じている人が気軽に悩みを相談できる場を作ろう。そうした活動をする人たちを応援しよう。
- シェアハウスで暮らしてみよう。共同生活のライフスタイルを叶える住まいを増やそう。
- 誰でも気軽に参加できるイベントを地域で開催しよう。
- コミュニティの活動が見える化し、参加しやすくしよう。

- 住民が気軽に参加できる学びの場を増やそう。例えば地域でサイエンスカフェをやってみよう。

「社会的孤立」を防ぐために

個人主義、能力主義の風潮の中で、家族や社会との関係が希薄で他者との接触がほとんどない「社会的孤立」が拡大しています。社会的孤立は自殺、孤立死、犯罪、薬物依存、ゴミ屋敷など様々な社会問題につながります。結びつきを大切にし、身近な居場所づくりや小さな地域単位の見守りのネットワークを築く必要があります。

めざす姿

I 自分らしく生きられる社会

③

世界へ広がる交流

五国の多彩な魅力が
人をひきつけ
国内外との双方向の交流が
活発に行われる社会

例えば

- 五国の個性に磨きがかかり、国内外の人が兵庫を楽しんでいる
- 海外の企業や人材が生き生きと活動する
- 外国人県民と共に働き、学び、暮らす
- 兵庫の人材、企業が続々と海外に進出する
- 世界中を行き来する人が増え、世界との双方向の交流が深まる

- 摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の五国の個性に磨きがかかり、子どもから大人まで地域に対する誇りと愛着が強まっています。住民の誇りに支えられた地域の文化や景観、産物の魅力が各地に根差すストーリーと共に世界に発信され、国内外から多くの人々が観光で兵庫を訪れ、五国を巡り、楽しんでいます。
- 海外の人材や企業を呼び込む地域になっています。留学生や実習生、県内企業で働く人、県内に拠点を置く外国企業で働く人など、海外から来る人々が増え、県内各地で生き生きと活動しています。
- 文化や宗教の違いを超えて外国人県民と共に働き、学び、暮らす社会になっています。外国人との交流を通じて、世界の多様性に気付く県民が増えています。ダイバーシティを理解し、実践する住民の力で

地域社会が活気づいています。

- 兵庫が大切にしてきた学術・文化・産業の強みを活かし、多彩な知見や技術を持つ兵庫の人材、企業が続々と海外に進出して活躍しています。阪神・淡路大震災を機に国際的な拠点が形成された防災をはじめ、医療、環境、農業などの得意分野で世界の課題解決に貢献しています。
- 世界の広さや面白さを伝える教育が行われ、子どもの頃から世界に目を向けるようになっていきます。ふるさとへの愛着を持ちながら、世界中を自在に行き来する人が増え、様々な国・地域と関係を持つ兵庫人が架け橋となり、国内はもちろんのこと世界中の地域と双方向の交流が深まっています。

〈アクション例〉

- 地域の資源を掘り起こし、磨き上げ、発信しよう。
- 緑化や無電柱化を進め、世界に誇れる街並みを作ろう。
- 外国人県民が安心して暮らせる環境を整えよう。病院、学校等の多言語対応、日本語・母語教育を進めよう。
- 高校・大学で留学生を受け入れ、卒業後も兵庫・日本で活躍してもらえるように応援しよう。
- 海外で事業を展開し、世界の課題解決に貢献しよう。

- 海外留学に挑戦しよう。海外での生活経験を積もう。

社会に活力を生む「ダイバーシティ」

ダイバーシティの元々の意味は、年齢、性別、国籍等の「多様性」ですが、単に多様であるだけでなく、互いの違いを認め合い、受容することまで含めた言葉と捉える必要があります。異なる文化や価値観を持つ外国人と一緒に働き、暮らす「ダイバーシティ」に富んだ地域をつくる取組は、兵庫に新たな活力をもたらすでしょう。

子どもの個性を伸ばす
教育が行われ
大人になってからも
学び続けられる社会

例えば

- 一人ひとりの意思と個性が尊重される
- 学校・家庭・地域で子どもの自発性が育まれる
- 兵庫が先導する体験学習で子どもたちの社会への関心が深まる
- 子どもたちに多様な学びの選択肢がある
- 誰もが学びたいときに学びたい場所で学べる

- 無意識の思い込みを自省し、決めつけずに対話し、待つことができる大人が増え、一人ひとりの意思と個性がもっと尊重される社会になっています。答えのない時代を生きるのに必要な自発性や創造力を育むため、ツールとしてICTを最大限に活かしつつ、学校・家庭・地域で対話を重視した探求型の教育が行われています。教員も親も地域の大人たちも子どもの個性を伸ばすことに注力しています。
- 兵庫が先導する幅広い体験学習を通じて子どもたちが社会に関心を深めています。自然、文化、産業の実物に触れ、地域の大人と対話する機会が豊富にあり、社会全体が学びの場になっています。都市と多自然地域を行き来する学びの形も広がっています。
- 地域に多様な学びの選択肢があり、子どもたちは自

分に合った場所で安心して学べます。様々な考えを尊重し、意見を交わす学びが大切にされています。高校の特色化がさらに進み、義務教育終了後の選択肢も広がっています。

- 誰もが学びたいときに学びたい場所で学び、新たな知識や技能を身につけたり、専門性を磨いたりする社会になっています。大学が地域に開かれた学びの拠点となり、年齢を問わず学び直し、新しいことに挑戦する人が増えています。学び直しの広がりにより一人ひとりの生き抜く力が高まっています。
- 身近な地域にいろいろな学びの場があります。誰もが先生にも生徒にもなれる学びの場が広がり、暮らしに役立つ知識や趣味に関わることまで多様なテーマの学びに多くの人に参加しています。

〈アクション例〉

- 子どもたちが試行錯誤できる探求型の学びを広げよう。
- 一人ひとりの個性に合った学びができる環境を作ろう。
- そこでしか体験できない教育を生み出そう。
- 学校だけでない学びの選択肢を広げよう。
- 都市と多自然地域の学校の交流の輪を広げよう。
- いくつになっても学び続けよう。リカレント教育を普及させよう。

- 地域の中に多様な学びの場をつくり、参加しよう。

先の見通せない「VUCA（ブーカ）」時代の到来

VUCA（Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性）時代には、問題解決に加えて問題を「発見」する力、本質を見抜く力が求められます。変化する状況の中で目的を見失わないよう方向性を示すビジョンの重要性が説かれています。

めざす姿

Ⅱ 新しいことに挑戦できる社会

⑤

わきあがる挑戦

アイデアを形にする実践が
無数に行われ
新しいチャレンジが
次々と生まれる社会

例えば

- 社会課題の解決に挑む起業家が次々と生まれる
- たくさんの小さな挑戦が地域の魅力を高めている
- ボランティア活動の一大拠点であり続け、寄付文化も広がる
- 何度でも挑戦できる環境が整う
- 自分なりの課題を持って、新しい活動に取り組む

□いろいろな実験ができる地域の多様性、超高速の通信基盤、充実した伴走型支援などの環境の魅力で、起業をめざす人材が集まり、新しい事業に挑んでいます。人が人を呼ぶ好循環が生まれ、地域に応援されながら斬新なアイデアで社会課題の解決に取り組む起業家が次々と生まれています。

□特技を活かしたスモールビジネスや、地域の困り事を解決するボランティア活動に多くの人々が挑戦しています。カフェや地場産品を用いたグッズ製作、子育て支援など小さな活動の集積が地域の魅力や暮らしやすさを高めています。

□兵庫は阪神・淡路大震災を契機に全国に広がったボランティア活動の一大拠点であり続けています。福祉や子育て、文化や環境保全など、幅広く民間非営利団体の活動が展開され、新たな取組も次々と生ま

れ、多くの人々が楽しく役割を担っています。それらの活動を応援する寄付文化も広がっています。

□失敗を貴重な経験として評価する社会になり、何度でも挑戦できる環境が整っています。失敗したときのセーフティネットがあり、再挑戦するとき資金面の支援などで不利になることもありません。

□社会課題の解決や新しい価値の創出に取り組むマインドを引き出す教育が行われています。地域に多くのチャレンジの機会があり、多くの若者が周りに応援されて一歩を踏み出しています。自分たちにも社会を変える力があると感じる若者が増えています。

□誰もがより良い生き方を追求しています。スポーツやアウトドア、歴史文化、食など人それぞれの課題を持って新しい暮らし方や学びを楽しんでいます。

〈アクション例〉

□新しい事業を始める人を応援しよう。社会課題解決を支援するファンドづくりなど起業を促す環境を作ろう。

□小さな起業に挑戦してみよう。

□社会の課題を見出し、仲間と一緒に取り組もう。

□寄付文化を広げ、寄付が盛んなまちにしよう。

□失敗しても再挑戦がしやすい環境を整えよう。

□起業体験ができる教育プログラムを作り、参加しよう。

□日々の暮らしの中で、自分なりの課題に挑戦しよう。

地域に根付いた「スモールビジネス」の広がり

地域の課題をアイデアの源とし、高齢者向けサービス、空き家・空き店舗の活用、農や自然などの体験型ツーリズムなど、様々なスモールビジネスが広がっています。

文化が暮らしの中心にあり
伝統と革新が織りなす
多彩な表現活動が
展開される社会

例えば

- 地域がこぞって文化的な活動を拡げている
- 多彩な表現活動が暮らしに彩りと刺激を与える
- 誰もが芸術文化を享受できる環境が整っている
- 芸術文化を学んだ人材が地域を元気にしている
- 先端的なアートやデザインに挑む人々が新たな価値を生む

- 阪神・淡路大震災からの復興の大きな原動力になった経験から芸術文化を大事にする県であり続けています。スポーツや食も含む幅広い意味での文化を暮らしの中心に据える県民が増えています。文化が地域の活力と豊かさを測る尺度になり、地域がこぞって文化的な活動を拓げる社会になっています。
- 多くの人が生活の中で創作、発表、鑑賞を楽しんでいます。多彩な表現活動が暮らしに彩りと刺激を与え、人々の感性や創造性を高めています。伝統的な芸術文化も次の世代に受け継がれています。
- 地域に様々な芸術文化の拠点があり、個性的な創造集団が活躍しています。誰もが芸術文化を享受できる環境が整い、兵庫が多様な芸術文化を楽しめる地域として世界が憧れる場所になっています。

- 芸術文化の力で地域を元気にする人材を育て、送り出す県になっています。演劇的手法を使ってコミュニケーション能力を高める講座など、演劇、音楽、美術などの技術を活かして子どもの主体性、表現力を養うプログラムが各地で展開されています。兵庫で芸術文化を学んだ人材が全国で活躍しています。
- 芸術、映画、ゲーム、ファッションなどの体験価値を提供するクリエイティブ産業が育っています。先端的なアートやデザインに挑む人々が集まり、新たな価値を創出しています。
- アートやデザインの思考を持った作り手が育ち、兵庫のものづくり産業、地場産業が進化しています。培ってきた伝統と、新しい発想からの革新の融合により、世界を魅了する産物を生み出しています。

〈アクション例〉

- 夢中になれる文化的な活動を見つけて取り組もう。
- 図書館を身近な文化活動の拠点として育てよう。
- 創作、発表、鑑賞ができる場所を増やそう。
- 伝統文化を継承する担い手を育てよう。
- 芸術を活かして表現力を養うプログラムを展開しよう。
- 県内でクリエイティブ産業を育てよう。

芸術文化の4つの意義

- ①人に楽しさや感動、安らぎ、生きる喜びをもたらす。豊かな人間性、創造力、感性を育む。
- ②地域の個性の核となり、地域の一体感を醸成。
- ③人類共通の感動体験が異質なものに対する寛容な心を醸成し、世界の人々との相互理解と共生を促進。
- ④新しい産業の振興や既存産業の高付加価値化。

めざす姿

Ⅲ 誰も取り残されない社会

⑦

みんなが生きやすい地域

年齢、性別、障害の有無
国籍などに関わりなく
一人ひとりの個性が
大切にされる社会

例えば

- 異なる文化や価値観が共存する開かれた多文化社会になる
- 年齢に関わらず、みんなが生き生きと活動する
- 障害の有無に関わらず、すべての人が持てる力を発揮できる
- 性別に関わらず、誰もが自分らしく暮らせる
- 誰もが快適に過ごせるユニバーサルなまちづくりが進む

- 暮らしの中で多様な文化や価値観に触れる機会が増えています。対話を通じて異なる文化や価値観を持つ人への理解が深まり、すべての人の人権を尊重し他者の立場に立って考える力が育まれています。
- 新たな仕事への挑戦やボランティア活動、趣味、スポーツなど、年齢に関わらず、活動領域が狭まることなく、みんなが生き生きと活動しています。
- 学校では、障害の有無に関わらず一緒に学べます。ICTの活用や産業と福祉の連携などにより誰もが持てる力を発揮できる社会になっています。
- 年齢や障害の有無などに関わらず、誰もが気兼ねなく安心して旅行できる環境が整っています。
- SOGIEの考え方が広がり、性の多様性への理解が深まっています。多様なあり方を支える環境が整い、性別に関わらず、誰もが自分らしく暮らせる社会に

なっています。

- 長時間の労働から解放され、身の回りの地域に関心を向ける人が増え、孤立している人がいないかを気にかけあう地域になっています。経済的な理由などで生きづらさを抱え、孤立しがちな人も、取り残されずに地域で支えられ、適切な支援を受ける中で、生きる意味や社会での役割を見出しています。
- 福祉のまちづくりで全国を先導し、誰もが困難を抱えることなく快適に過ごせるまちが形作られています。信頼性の高い情報が簡単に手に入ります。ユニバーサルデザインが隅々まで浸透し、弱者を生まない社会になっています。
- 自治体は様々な主体が提供する公的なサービスのプラットフォームになり、住民は多様な選択肢の中から自分に合ったサービスを好きに選べます。

〈アクション例〉

- 地域にいる外国人県民と交流する機会を増やそう。
- 年を取っても、新しい活動に挑戦しよう。
- 障害の有無に関わらず一緒に学べる環境をつくろう。
- 当事者の声を聞いて、性の多様性への理解を深めよう。
- 多様な人の声をもとにユニバーサルなまちをつくろう。
- 人権について学び、互いを認め合う共生の心を育もう。

「SOGIE（ソジー）」という捉え方

人が持つ性の多様性を表す言葉です。

- ①SO(Sexual Orientation：性的指向＝好きになる性別)
- ②GI(Gender Identity：性自認＝自分の性の認識)
- ③GE(Gender Expression：性表現＝服装や髪型、一人称等の性別に係る表現)の3要素の略称で、すべての人にそれぞれのSOGIEがあります。

地域に見守られながら
安心して子育てができ
多様な家族の形を
受け入れる社会

例えば

- 子どもの成長を社会全体で手厚く支援する
- 子育てを優先できる労働環境が整う
- 知り合いや地域の中で支え合う子育てが広がる
- 親子が集える広場や子どもたちの自由な遊び場がある
- 多様な家族と子育ての形が広がる

- 子育て・教育を家族任せにせず、社会全体で手厚く支援しています。質・量ともに充実した保育・教育サービスがあり、何人子どもを産んでも安心して育てていけます。若者が経済的な不安のために結婚や出産をためらうことのない社会になっています。
- 誰もが仕事と生活の調和が取れた暮らしをしています。性別に関わらず子育てをしながら社会の中で能力を活かして活躍することができ、安定した生活を送ることができます。結婚、出産、育児が仕事のキャリア形成と両立しています。
- 子育てを優先できる労働環境が整っています。勤務形態や時間、場所などを柔軟に選べる働き方が広がり、ゆっくり子どもと向き合う時間を持てます。家族団らんの時間が増えています。

- 地域に子どもを見守る意識が広がり、地域の緩やかなつながりの中で子育て家庭が支えられています。知り合い同士の助け合いや共同保育の形も広がり、支え合う関係の中で、どんな家族も孤立することなく、安心して楽しく子育てができます。
- 身近な地域に親子が集える広場や子どもの自由な遊び場があります。地域の人たちが見守る中で、思い切り子どもたちが遊び、親同士も交流しています。
- 家族と子育ての形が多様化しています。里親や特別養子縁組の制度が広く受け入れられ、子どもたちは温かい家庭環境の中で安心して暮らしています。誰もが安心して子どもを持ち、育てることができ、家族形態の違いで不利益を受けることはありません。

<アクション例>

- 子育てしながらでもストレスなく働ける環境を作ろう。
- 家庭と学校以外の、子どもたちが安らげる居場所を地域に作ろう。子ども食堂を立ち上げよう。
- 子育て中の親たちが気軽に集まれる場を立ち上げ、話し合ったり、支え合ったりする関係を作ろう。
- 子どもが安心して遊べる公園を作ろう。
- 多様な家族や子育ての形があることを学ぼう。

経済的安定が選択の分かれ道

子どもを持つかどうか、結婚するかどうか、その判断の分かれ目の一つに経済的安定という大きな問題があります。子どもにお金がかかりすぎることで、ますますその傾向が強まっています。子育てにおいて様々な外部サービスの活用が広がる中で、その負担をどう下げるかを社会全体で考える必要があります。

めざす姿

Ⅲ 誰も取り残されない社会

⑨

安心して長生きできる社会

充実した
医療・福祉サービスを受けられ
何歳まで生きても
安心な社会

例えば

- 生活習慣の改善が進み、健康寿命が伸びる
- 健康医療産業が集まり、最先端の医療が行われる医療先進地になる
- どこにいても切れ目のない医療・介護サービスを受けられる
- 困ったときに助け合える地域のネットワークがある
- 住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる

- 健康な心身を保つ意識が高まり、自然に親しみ、スポーツを楽しむ人が増えています。身体の機能を計測し、そのデータを生活の改善に活かす習慣が広がり、平均寿命とともに健康寿命が伸びています。
- 健康医療産業の集積により兵庫が医療先進地になっています。個別化医療や先制医療が普及し、人工臓器などの再生医療も広がっています。所得格差などによる寿命の格差が生じない社会になっています。
- 在宅診療や充実した介護サービスを組み合わせ、どこにいても、身近な地域の中で切れ目のない安心の医療・介護サービスを受けることができます。
- 人生の最終段階の医療や過ごし方を自らの意思で選択できる環境が整い、本人の意思を尊重したケアが行われています。
- 24時間対応の在宅介護サービスに加え、地域に見守りのネットワークがあり、困ったときに助け合えるつながりがあります。生活の課題に総合的に対応する社会福祉の仕組みが整い、どんな状況になっても住む場所に困ることもなく、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができます。
- 外出が難しい人も、ICTを使って人との交流や仕事ができ、社会に参加しています。介護ロボットやICTの普及により介護者の負担が軽減しています。
- 必要な医療・福祉サービスを受けることができ、何歳まで生きても安心な社会であり続けています。人生の晩年を自分らしく暮らすことができます。

〈アクション例〉

- 毎日身体を動かそう。バイタルデータを記録しよう。
- 健康医療産業を兵庫全体の基幹産業に育てよう。
- 在宅診療が広がる仕組みをつくろう。
- 誰もが住み慣れた地域で安心してターミナルケアを受けられるよう地域のサポート体制を整えよう。
- 地域の中で見守りのネットワークを構築しよう。
- 介護分野の技術開発を兵庫から先導しよう。

「ベーシックサービス」という考え方

教育、医療、介護、障害者福祉の基本的サービスをすべての人に無償で提供する社会制度のことです。一定の現金をすべての人に給付するベーシックインカムより少ない財源で生活保障を行える方策として近年導入の可能性が議論されています。財源の確保や不必要なサービス利用の抑制などの課題があるため、国民的議論を踏まえた検討が必要です。

地域の課題に応える仕事が
次々と生み出され
地域の中で
価値が循環する社会

例えば

- ものづくり産業が地域経済を牽引する
- 兵庫の多様な地場産業の存在感が国内外で高まっている
- 地域の課題解決に挑むコミュニティビジネスが拡大する
- 地域の需要に応える仕事を自分たちで作る、働く形が広がる
- 持続可能性と収益性を両立する「循環経済」が定着する

- 地域に根付くものづくり産業が先端技術と伝統技術の融合で進化し、兵庫の企業が世界になくはない存在となり、地域経済を牽引しています。
- 各地の地場産業がデザイン性や物語性を武器に存在感を高め、国内外でファンを獲得しています。事業が継承され、地域の持続的発展に貢献しています。
- 兵庫の企業が高度にデジタル化し、データ活用から新たな価値を生み出しています。公的サービスへの企業参入も進み、公民連携で利用者の満足度の高いサービスが効率的に提供されています。
- 住み働く地域の中での人と人のリアルなつながりから創造的な仕事が次々と生み出され、住民に応援されながら小さなビジネスとして自立しています。
- 地域の内外を問わず志を共有する人々がチームを組

み、地域の資源を活かして地域の課題解決に挑むコミュニティビジネスが盛んに行われています。

- 地域の需要に応える事業を行う組合を住民が出資して設立し、自ら働き手として事業に従事する労働者協同組合や、地域内でギグワーカー（独立業務請負人）が仕事をシェアして事業を営むスタイルなど、地域で仕事を担い合う形が広がっています。
- シェアリングエコノミー（個人が保有する資産やスキルを他人に利用させる取引）やサブスクリプション（定額使い放題のサービス購入形態）が定着し、地域内でモノを使い合う関係が広がっています。
- 廃棄物を資源に変え、化石燃料にも依存しない循環経済への転換が進んでいます。持続可能性と収益性を両立する地域経済が実現しています。

〈アクション例〉

- 中小企業の異業種交流を進めよう。
- 中小企業のデジタル化を進めよう。
- 地域の企業を買い支えて応援しよう。
- 地域の課題解決に挑戦する人材を育成しよう。
- 労働者協同組合を活用して住民が自分たちで働き方を決められる仕事を作ろう。

- シェアリングエコノミーを使いこなそう。
- 持続可能性を志向する企業を応援しよう。

広がる「サーキュラーエコノミー（循環経済）」

3Rを更に推し進め、材料調達、製品設計の段階から資源の回収と再利用をめざす産業のあり方のことです。シェアリングビジネスも含み、欧州では新たな雇用を生む経済活動として成長戦略の中核に据えられています。

めざす姿

IV 自立した経済が息づく社会

⑪

進化する御食国

多様な気候風土を活かして
多彩な食を生み出し
地域に豊かな食が
行き渡る社会

例えば

- 五国の特性を活かした多様な農業が展開される
- 人と環境にやさしい農業が県土の隅々まで浸透する
- 美しく豊かな海で持続性の高い漁業が営まれる
- 超省力・高品質の食料生産体制が広がる
- 安全で信頼できる食が社会に行き渡る

- 気候風土の異なる五国それぞれの特性と、都市近郊の立地を活かし、地域経済を支える多様な農業が持続可能な形で力強く展開されています。
- 農業経営の法人化・大規模化や企業参入が進んでいます。オリジナル品種のブランド化や加工品開発、農家レストランの運営など6次産業化により小規模でもきらりと光る生産者も活躍しています。
- コウノトリ育む農法に代表される環境創造型農業の先進地になり、人と環境にやさしい農業が隅々まで浸透しています。地産地消が徹底され、農業生産における脱炭素化も進んでいます。
- 農業が障害のある人など多様な人が活躍できる産業になっています。副業・兼業、時々手伝う、土地を出す、買い支える、SNSで応援するなど様々な関わり方で地域の農業を支える形も広がっています。
- ICTの活用により畜産業の生産性が向上し、高品質の畜産物が安定的に生産されています。但馬牛・神戸ビーフは世界の需要に応えています。
- 多様な生き物を育む豊かで美しい海の再生と水産資源の適切な管理手法の確立により、瀬戸内海でも日本海でも持続性の高い漁業が営まれています。
- 自動水管理や施設園芸における環境制御など、営農条件に応じたスマート農業が広がり、省力・高品質の生産技術が多様な農業を支えています。自動化された施設での食料生産も広がっています。
- 安全で信頼できる農林水産物が安定供給されています。食べ物を大切にする意識が高まり、本来食べられるものが捨てられることなく活かされています。必要とする人に食が行き渡る社会になっています。

〈アクション例〉

- 地域みんなで話し合っ、農地を有効に活用しよう。
- 法人化を進めよう。スマート農水産業に取り組もう。
- オリジナル品種のブランド化や6次産業化を進めよう。
- 農業体験をするなど、地域全体で農業に親しもう。
- 地域一体で環境創造型農業の取組を進めよう。

- 但馬牛・神戸ビーフブランドを広く世界に発信しよう。
- 川の上下流の連携で豊かな海を作る取組を進めよう。

「環境創造型農業」とは？

農業の自然循環機能の維持を図り、環境への負荷を軽減するため、土づくりを基本として、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を低減する生産方式のことです。

交流と安全の

基盤が整い

自ら危機に備える文化も根付く

強靱な社会

例えば

- 超高速の通信基盤と充実した交通基盤が社会経済活動を支える
- 社会基盤の強靱化・長寿命化とICTを駆使した防災・減災が進む
- 地震・風水害や感染症に強いまちづくりが進む
- 未知の感染症にも迅速に対応する危機管理体制が整う
- 過去の災害の経験を活かし、あらゆる危機に力を合わせて対処する

- 兵庫が誇る超高速の通信基盤と基幹道路ネットワークをはじめとする充実した交通基盤が活発な社会経済活動を支えています。県内を覆う道路網は自動運転に対応しています。多様な乗り物を自由に選択して動き回るMaaSの仕組みが整い、あらゆる地域で移動手段が確保され、乗り物のシェアリングサービスも広く普及しています。自転車道が整備され、自転車を通勤・通学や観光で使う人が増えています。
- 犯罪や事故の少ない安全な地域になっています。高度なセキュリティ対策により、社会経済活動が行われるバーチャル空間の安全性も守られています。
- 社会基盤の強靱化・長寿命化が一層進んでいます。災害予測システムや救助ロボットなどICTを活用した高度な防災・減災対策が社会に浸透しています。
- ハード・ソフト両面の対策が進み、風水害や地震・津波の被害を最小限に抑えるまちづくりが進んでいます。ハザードマップをもとに居住地を選ぶ、過密な都市の暮らしを避けるなど、災害や感染症のリスクに強い暮らし方を志向する人も増えています。
- 巨大災害や未知の感染症にも迅速に対応できる危機管理体制が整っています。災害からの復興策を事前に準備する回復力の高い社会になっています。
- 地域で助け合う共助の文化が浸透しています。過去の災害の経験を活かし、感染症を含むあらゆる危機に力を合わせて対処する地域になっています。
- 災害発生後は、兵庫から世界へ広がった、前より良い社会を創る「創造的復興」の考え方から、産業、地域が新しい時代に相応しい姿に復興しています。

〈アクション例〉

- 自動車や自転車のシェアサービスを広げよう。
- いろいろな危機に柔軟に対応できる危機管理体制を整えよう。BCP（事業継続計画）を整備しよう。
- インフラの長寿命化と集約適正化を計画的に進めよう。
- 防災・減災にもっとICTを活用しよう。
- 防災について地域の中で話し合う場を作ろう。
- 災害のリスクを見える化し、一人ひとりが防災に取り組

- めるようにしよう。
- 災害のリスクを考えて、住む場所、働く場所を選ぼう。

「MaaS（マース）」とは？

Mobility as a Serviceの略称です。バス、電車、タクシー、シェアサイクルなど、あらゆる移動手段を一連のサービスとして組み合わせて検索・予約・決済等をシームレスに行うサービスのことです。

めざす姿

V 生命の持続を先導する社会

⑬

カーボンニュートラルな暮らし

自然との共生が
日々の暮らしに浸透し
地域と世界の持続可能性が
高まる社会

例えば

- 脱炭素を志向するライフスタイルが定着する
- 水素社会が実現し、エネルギー自立の地域が広がる
- 失われた自然を復活させる取組で世界を先導する
- 農村・森林が防災、生態系保全などの公益的機能を発揮する
- 豊かな森が甦り、野生動物と人の営みの共存が進む

- 大量に生産、消費、廃棄する時代は終わります。移動手段の脱炭素化が進み、再生可能エネルギー由来の電力を使う住居も普及し、衣料・食料でも脱炭素を志向するライフスタイルが定着しています。
- 究極のクリーンエネルギーである水素の利用が広がっています。水素発電が実用化され、水素自動車も普及し、世界に先駆けて兵庫の地で水素を基幹エネルギーとする水素社会が実現しています。
- 地域の再生可能エネルギーによる電力供給を柱に、公的サービスを供給する新しい形の公社が増えています。地域でエネルギーを自給し、災害にも強い、スマートコミュニティが広がっています。
- 暮らしを支える生態系サービスへの理解が広がっています。コウノトリの野生復帰や尼崎21世紀の森づ

くりをモデルに失われた自然や生態系を復活させる取組が進み、世界の自然再生を先導しています。

- 農村や森林が有する公益的機能への理解が深まり、防災、生態系保全、水源涵養、景観形成などの価値を生むものとして、農林業が大切にされています。
- 林業経営に適した森林が区分され、植林、保育、伐採、利用のサイクルを回す持続可能な林業が営まれています。その他の森林は共有の財産として地域で保全管理され、自然体験などにも使われています。
- 豊かな森の再生により野生動物の本来の生息域が甦っています。野生動物の保護管理の仕組みも整い、人の営みとの共存が実現しています。森や草原の生態系が保全され、イヌワシが空を舞っています。

〈アクション例〉

- 交通手段や住居の電力など日々の生活でカーボンニュートラルを実践しよう。エシカル消費を実践しよう。
- 兵庫を水素社会の先進地にしよう。
- 再生可能エネルギーによる電力供給を柱に、地域に必要なサービスを供給する新しい形の公社を作ろう。
- 白砂青松、水辺、せせらぎなど、身近な自然と生態系を

復活させる取組を各地で進めよう。

- いろいろな形で県産木材の利用を広げよう。

「生態系サービス」とは？

生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みを正しく評価するための概念で、①食料・木材等の供給サービス、②気候等の調整サービス、③生息・生育地サービス、④景観等の文化的サービスの4つの側面があります。

自然の豊かさを
享受する暮らしが
各地で営まれ
大都市集中が緩和した社会

例えば

- 県土の多様性を活かした二地域・多拠点の暮らしが広がる
- 住民主導・人間中心のまちづくりが進む
- 地域で楽しく生きる大人たちを見て子どもたちが育つ
- 山、川、海を楽しむライフスタイルが広がる
- 多様な住まい方を支える仕組みが整う

□社会のデジタル化に伴い、人口の大都市集中が緩和し、自然に近い場所で暮らす人が増えています。都市と多自然地域が近接する県土の多様性を活かしてワーケーションや二地域居住、多拠点居住のライフスタイルが広がり、副業で農業や狩猟に携わる人も増えています。地域で暮らす人々の営みが自然環境や生物多様性の保全につながっています。

□古民家をはじめ空き家を活用して魅力的な暮らしをする人が増えています。いろいろな住まいが選べ、持ち家にこだわらない住まい方も広がっています。

□自らの力で地域をより良くしようとする協働のまちづくりが根付いています。住民主導のエリアマネジメント組織が各地に生まれ、人間中心にデザインされた街路や賑わいを生むオープンスペースが増え、歩いて楽しめる魅力的なまちが形成されています。

〈アクション例〉

□安心して二地域・多拠点居住ができる環境を整えよう。

□自分たちの力でまちづくりを進めよう。まちづくりにいろいろな人が参加できるプラットフォームを作ろう。

□民間企業やクリエイターを巻き込んで地域をより良い空間にする取組を進めよう。

□県内を歩いて巡れるフットパスを整備しよう。

□持ち前の資源を活かして元気な地域をつくる取組が広がっています。そうした活動が地域の風景とともに住民の誇りとなり、ふるさとへの愛着を育んでいます。周りで楽しく生きる大人を見て育った子どもが大人になっても地域と関わり続けています。

□山、川、海へのアクセスが整い、兵庫の豊かな自然を楽しむ人が増えています。県全域を歩いて巡る道（フットパス）が整備され、人気を集めています。

□公的なサービスが共通化し、多様な住まい方を支える住民票や住民税の制度も整っています。電子投票も普及し、誰もが選挙に参加し易くなっています。

□デジタル化により自治体運営が高度化しています。意思決定過程は透明化され、多様な主体の集合知を活かす仕組みで施策の精度が高まっています。

□自治体運営のデジタル化・透明化を進めよう。

「都市化」から「開疎化」へ

大都市に人が集まり、それ以外の空間が置き去りにされる「都市化」がこれまでの潮流でしたが、コロナ禍により、密集、密閉をリスクとして避ける意識が生まれ、開放された「疎」な空間（豊かな自然環境や自然に囲まれた中小都市）に向かう人の流れが生まれています。

めざす姿

V 生命の持続を先導する社会

⑮

社会課題の解決に貢献する産業

兵庫発の 社会課題を解決する産業で 暮らしの持続可能性を高め 国内外を先導する社会

例えば

- 暮らしの持続可能性を高める産業が集積する
- 環境エネルギー産業と健康医療産業の拠点になる
- 資源循環、食料生産などの新分野にもものづくり産業が進出する
- 先端科学技術基盤を活かして人類の課題を克服する
- 兵庫の社会課題解決モデルを世界へ発信する

- 暮らしの持続可能性を高める産業が集まる地域として兵庫の名が知られています。海上空港と国際戦略港湾を持つ日本有数の地の利を活かし、環境エネルギー、健康医療、ロボット、航空宇宙、新素材、海洋開発、防災、ITなど先端科学技術を手掛ける企業が集まり、地域の新しい基幹産業となっています。
- 神戸医療産業都市を中心に健康医療産業の世界的な集積地になり、生命科学の最先端をリードする研究開発の成果が続々と生まれています。
- 水素社会を支える関連産業が兵庫の地に集積しています。臨海部に水素の受入・供給基地が立地してプラントの製造や技術開発を行う企業が集まり、新たな事業者の参入も進んでいます。水素をはじめとした環境エネルギー産業の一大拠点になっています。

- ものづくり産業が先端科学と融合して進化し、資源循環や食料生産など新しい分野に進出しています。
- 県内に立地する世界最高水準の科学技術基盤を活用し、大学や研究機関、企業が連携して、人類の課題を克服する研究成果が次々と生み出されています。新技術の実装に向け、様々な社会実験が県内で行われ、県民も試行錯誤のプロセスに参画しています。
- 多様な地域特性が凝縮された「日本の縮図」兵庫における社会課題の解決に向けた取組が国内外のモデルになっています。兵庫の企業や地域の取組が広く発信され、そのアプローチを学びに国内外から多くの人が県内各地を訪れています。
- 広域連携により新たな価値を生む関西経済圏が世界の中で存在感を発揮しています。

〈アクション例〉

- 水素関連産業を基幹産業として育てよう。水素をはじめとした環境エネルギー産業の一大拠点を作ろう。
- 神戸医療産業都市を核に健康医療産業を盛り上げよう。
- 中小企業の新分野進出を応援しよう。
- 大学・研究機関と企業間の連携をもっと強めよう。世界有数の科学技術基盤を活かして研究開発を進めよう。
- 公民連携のプラットフォームを活かして、新しい課題に

挑戦する人材と企業を呼び込もう。

- 兵庫の社会課題解決モデルを世界へ発信しよう。

国のムーンショット研究開発目標（2050年までに実現）

- ①身体、脳、空間、時間の制約からの解放
- ②超早期の疾患予測・予防
- ③人と共生するロボット
- ④持続可能な資源循環
- ⑤持続可能な食料供給
- ⑥汎用量子コンピュータ
- ⑦持続可能な医療・介護
- ⑧台風・豪雨の制御
- ⑨こころの安らぎと活力の増大

1 基本姿勢

「開放性」を意識して4つの基本姿勢で取り組む

- 大きな**連携**の輪をつくる
- 試行錯誤**のプロセスを楽しむ
- 地球規模で考え、**足元**から行動する
- バーチャルを使いこなし、**リアル**を大切にする

□ 大きな連携の輪をつくる

ビジョンを実現するためには、社会を構成する多様な主体が役割を分担し、補完し合いながら共に取り組む連携が欠かせません。

ビジョンに共感し、共に行動する連携の輪が広がるほど、めざす姿の実現に向けた推進力は高まります。そのためには、ビジョンを具体化していくプロセスを透明化し、広く情報を共有する必要があります。つながりから新たな可能性を生むためにも、人もモノも情報も広く共有し、得られた成果もみんなで共有する姿勢が求められます。

□ 試行錯誤のプロセスを楽しむ

社会の課題は複雑化しており、模範となるモデルを探して追随することは難しくなっています。ビジョンの実現に向けては、試行錯誤を繰り返しながら、自力で道を切り拓いていく覚悟が求められます。

大切なのは、実験的な試みを楽しむ姿勢です。めざす姿に近づくために何が必要かを一人ひとりが考え、学習と実践のサイクルをテンポ良く回していく必要があります。また、地域には、そうしていろいろなことにチャレンジする人を歓迎する姿勢が求められます。

失敗から学び、再チャレンジする人を応援する、失敗に寛容な風土を根付かせていく必要があります。

□ 地球規模で考え、足元から行動する

地域を変えるためには、一人ひとりの県民が足元の地域の課題に目を向け、身の回りから解決に向けた行動を起こし、地道に取り組む必要があります。

一方で、気候変動、感染症など世界共通の課題がクローズアップされています。インターネットで世界が一つにつながり、世界の動きが直接地域に影響する時代です。これまで以上に世界で起こっていることに目を向け、世界と地域双方の視点を持って、自分に何ができるかを考える姿勢が求められます。

□ バーチャルを使いこなし、リアルを大切にする

ICTを駆使して生活をより良い方向に変化させるデジタルトランスフォーメーションを進め、バーチャル空間を最大限に活用して自由度の高い社会をつくっていく必要があります。

しかし、いくらICTを使いこなして便利になったとしても、大切なのは人と人とのリアルな交流であり、人の温もりです。リアルとバーチャルのバランスを考える姿勢が求められます。

2 動かす仕組みづくり

実行プログラムの策定

- 地域創生戦略をはじめ各分野計画をビジョンの実行プログラムと位置付け

先導プロジェクトの推進

- 全県ビジョン実現に向けた戦略の重点プロジェクトを推進
- 地域ビジョン実現に向けたプロジェクトを企画・協議する場を各地に設置

対話と学びの場づくり

- 県民が地域の未来を語り合い、考える場づくりを各地で展開

推進状況の見える化

- 推進状況を毎年度公表、状況に応じた見直しに柔軟に対応

(1) 実行プログラムの策定

- 県が定める各分野の基本的な計画はビジョンの実行プログラムとしての位置づけを有します。なかでも最も総合的な計画である地域創生戦略はビジョンの主たる実行プログラムとなるものです。
- これらの計画の目標にビジョンのめざす姿を織り込むなど、ビジョンの実現に向けた施策を県を挙げて推進していきます。

(2) 先導プロジェクトの推進

①重点プロジェクトの推進

- 全県ビジョンの実現に向けて県として先導的に取り組む重点プロジェクトの仕組みを整えます。
- 関係する主体が参画するプロジェクトチームを設置するなど、民間の自由な発案を活かす公民連携を基本にプロジェクトを推進します。

②地域プロジェクトの推進

- 地域ビジョンの実現に向けたプロジェクトを生み出す仕掛けとして、地域の多様な主体をつなぐプラットフォームとなる協議の場を各地域に設置します。
- この協議の場の運営は、地域ならではのユニークな取組を生む場となるよう地域の自主性に委ねます。

(3) 対話と学びの場づくり

- 今後も未来を考え続けることが大切です。各地域に設置するプラットフォームを中心に県民が地域の未来を語り合い、学び合う場づくりを進めます。
- 次代を担う若者が自分や地域の未来を考え、新しい一歩を踏み出すきっかけになるよう、若者がビジョンを素材に地域について学び、議論し、実践する場づくりを大学などと連携して進めます。
- 県民主体の取組を考える場として、小さな地域単位での多様な対話と学びの場づくりを支援します。
- 対話と学びを通じて県民主体の新しい取組が立ち上がるよう促し、市町と歩調を合わせて支援します。
- 多様な媒体を用いてビジョンの内容とその実現に向けた取組の情報を分かり易い形で発信します。

(4) 推進状況の見える化

①毎年度の点検評価

- 推進状況を毎年度点検評価し、その結果を取りまとめて公表します。

②柔軟な対応

- 社会情勢の変化など状況に応じたビジョンの見直しに柔軟に対応します。

策定のプロセス

- ・ 21世紀兵庫長期ビジョンの策定から20年、改訂から10年
- ・ 社会が変化する中、兵庫のめざす姿を改めて明らかにするため
県民との意見交換を重ねながら検討

県民の声

- ビジョンを語る会
- ビジョン出前講座
- 地域未来フォーラム
- オンラインでの意見交換
- グループインタビュー
- 個別ヒアリング
- 県民アンケート
- パブリック・コメント

10,000名
を超える県民の声

- 市町ヒアリング
- 県庁若手職員との意見交換、新規採用職員からの意見提案

<検討体制>

- [全県ビジョン] 長期ビジョン審議会、新ビジョン企画委員会、将来構想研究会
- [地域ビジョン] 新地域ビジョン検討委員会、地域デザイン会議



21世紀兵庫長期ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経ち、社会が大きく変化する中、兵庫のめざす姿を改めて明らかにするため、県民との意見交換を重ねながら検討を進めてきました。

<ビジョンを語る会>

地域の様々な団体や有志グループと地域の課題や将来像について車座形式で対話（92回 約2,100人）

<ビジョン出前講座>

グループワーク形式で兵庫の未来を考える出前講座を高校、大学等で実施（18回 約2,000人）

<地域未来フォーラム>

新ビジョンの方向性をテーマに地域別にワークショップや意見交換を実施（17回 約580人）

<オンラインでの意見交換>

検討への参画の輪を広げるため、オンライン意見交換ツール「Decidim」を導入（約340人登録）

<グループインタビュー>

新地域ビジョン検討委員会委員や先進的な活動をしている県民を対象に意見交換を実施（約80人）

<個別ヒアリング>

先進的な活動をしている県民や事業者を対象に個別にインタビューを実施（約50人）

<県民アンケート等>

・県民意識調査「兵庫の未来を考える」（2020年11～12月 回答者3,041人）

・県民モニター調査「兵庫県将来構想試案への意見」（2021年4月 回答者1,073人）

・県民モニター調査「今般のコロナ禍の影響と今後の展望」（2020年6月 回答者1,250人）

・パブリック・コメント：新ビジョン案への意見募集

<県内市町、県庁職員との意見交換>

・市町ヒアリング（全41市町）、意見照会（全2回）

・県庁における若手職員との意見交換（約130人）、新規採用職員からの意見提案（約310人）

<検討体制（全県ビジョン）>

・長期ビジョン審議会（34名 全4回）

・新ビジョン企画委員会（11名 全3回）

・将来構想研究会：基礎的研究を実施（9名 全14回）

<検討体制（地域ビジョン）>

・新地域ビジョン検討委員会：各地域15名程度

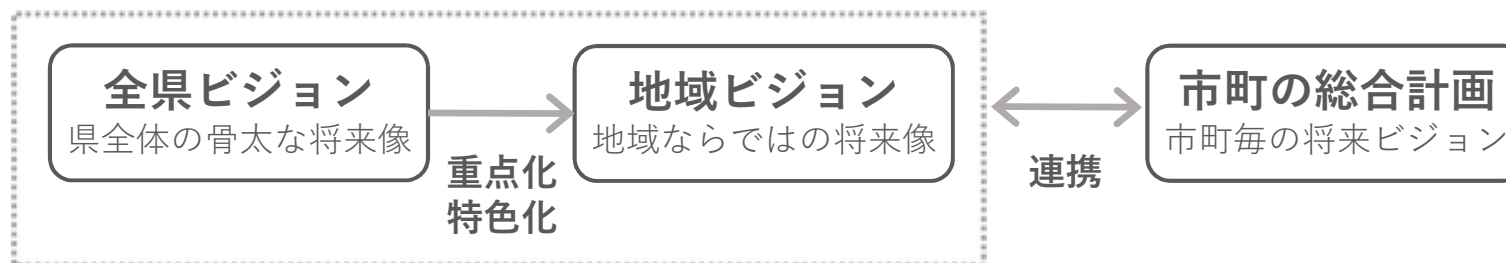
・地域デザイン会議：若者中心に各地の未来像を検討

《 参 考 》

9つの地域ビジョン

多様な地域からなる兵庫の強みをさらに伸ばすため、9つの地域ビジョンを同時に策定

全県＋地域
二層構造の
ビジョン



9つの地域のめざす姿

つながる、**たからじま**
～みんなで創るワクワク但馬～

光と水と緑でつなぐ元気西播磨

多様な地域に、個性（ひと）が
輝く中播磨

水辺・ものづくりのまちで
つながりワクワクする未来

人と自然の“環”が広がる淡路島
～「はじまりの島」からはじめらんか～



人と技術の力を活かした、
自然の中での多彩な暮らしの
カタチの創造・発信

田園の恵みが生み出すこちよい
未来の暮らし
～ひょうごのハートランド・北播磨～

(阪神南北は阪神地域で一つのビジョン)

コ・クリエーション（共創）が育む
阪神地域

みんなの希望にフィットするまち・神戸

《地域の個性を伸ばす9つの地域ビジョン》

兵庫の強みは地域の多様性であり、この強みを伸ばすために、全県ビジョンと一体的に地域ビジョンを策定します。地域ビジョンでは、地域の個性を際立たせる観点から、全県ビジョンのめざす姿を重点化、特色化し、地域ならではの将来像を描いています。

＜神戸地域＞

都市と自然の豊かな空間に、暮らす、働く、楽しむ、どれをとっても多様な選択肢がある神戸。希望に寄り添い、包み込むまち、希望をかなえる地域をめざします。

＜阪神地域＞

多様な人や文化を受入れ、愛着や誇りを育んできた阪神地域。人々が重層的につながるコ・クリエーションにより豊かな暮らしと活力を創造する地域をめざします。

＜東播磨地域＞

営みの源となる水辺と活力を生み出すものづくりのまち東播磨で、まちや歴史、文化、自然、産業と人とのつながりを深め、心躍る新たな未来を創り出します。

＜北播磨地域＞

県下有数の水田農業地域である北播磨の田園や、その恵みに新たな未来の技術が融合することで、こちよい未来の暮らしを実現します。

＜中播磨地域＞

世界に誇る歴史、祭りなどの文化、食や産業など魅力あふれる多様な「地域」が集う中播磨で、個性豊かな「人」が自分らしく活躍できる地域をめざします。

＜西播磨地域＞

豊かな歴史や自然の景観、受継がれる産業、温かい人のつながりなど西播磨の魅力をすみずみまでネットワークで結んで、地域が元気に躍動することをめざします。

＜但馬地域＞

豊かな自然、芸術文化、多彩な食など但馬の魅力を発展させ、多様性を認め、人がつながり合い、挑戦できる、誰もがワクワクする地域をみんなで創ります。

＜丹波地域＞

「丹波の森」は、内外の様々な人たちと結びつきながら、「未来社会の暮らしの実験場、共創空間」となり、新たな価値を生み出していきます。

＜淡路地域＞

人と自然の良質な関係が広がり、誰もが安心して暮らせるとともに、新しい挑戦が生まれ、未来に向かって発展し続ける島をめざします。